

連載企画 SDGs取り組み事例紹介

奈良建設株式会社

～地域から継続して認めてもらえる企業を目指して～



【会社概要】

1947年（昭和22年）の創業以来、横浜に基盤を置き日本国内でも珍しかった大型土木機械を積極的に導入し、高速道路や、大型宅地造成工事等を中心に機械土木施工の実績を伸ばした。その後、建築事業にも進出し、現在では総合建設業として事業を展開している。

2010年には、植物工場の設備を取り扱う(株)アグリ王を設立。障害者就労施設への設備導入も多く、地域での雇用創出の取り組みが評価され、SDGs認証制度“Y-SDGs”の最上位認証を受ける他、2023年には「横浜グランドスラム企業」に選ばれている。

【話し手】

奈良建設(株) 代表取締役社長 植本正太郎

——SDGsの取り組みをはじめたきっかけについてお聞かせ下さい。

SDGsに該当する活動は、国連で採択されるより前の2014年からペットボトルのキャップを社内で集めて、開発途上国のポリオワクチン接種に寄与する所謂エコキャップ運動に協力する等の活動を行っていました。

SDGsを新しいワードとしてはっきり認識して取り組みをはじめたのは、地元自治体の横浜市で

「Y-SDGs」*という認証制度が2021年からスタートし、当社も参加申請したことがきっかけでした。

この制度で登録された認証事業者は3段階に区分され、上位と最上位の事業者は総合評価方式の入札において加点対象となる画期的なものです。認証事業者となるための審査には、環境・社会・ガバナンス・地域という4つの分野の評価があり、それぞれの分野について当社の取り組み内容を照らし、改めて整理し直すことが出来ました。

〈エコキャップ運動〉



横浜市SDGs認証制度

Y-SDGs



〈Y-SDGsの認証区分〉

認証区分	認証マーク
【最上位】 Supreme (スプリーム)	横浜市SDGs認証制度 Y-SDGs - supreme -
【上位】 Superior (スーペリア)	横浜市SDGs認証制度 Y-SDGs - superior -
【標準】 Standard (スタンダード)	横浜市SDGs認証制度 Y-SDGs - standard -

❖* Y-SDGs とは❖

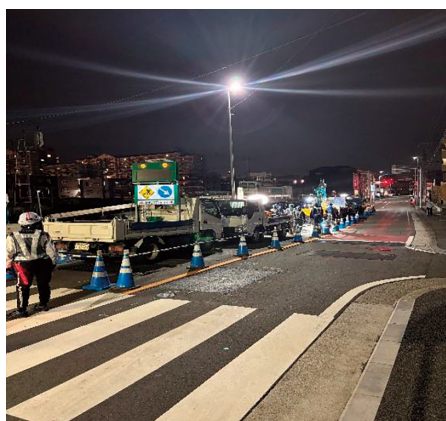
横浜市SDGs認証制度“Y-SDGs”は、事業者等が認証制度を活用してSDGsに取り組むことで、持続可能な経営・運営への転換、新たな顧客や取引先の拡大、さらには投資家や金融機関がESG投資等の投融资判断への活用につなげることを目指すための制度で、824社（令和7年3月時点）が認証されています。

——管路更生を通じてSDGsに貢献している事について教えて下さい。

開削工事と比較した管路更生工法の優位性は、既設管の廃棄や排出残土が無く、交通規制も少ないので渋滞による排気ガスが抑制される等、多くの面で環境負荷が軽減されることです。加えて、施工スピードが早い点等は広く一般的に認められていることだと思います。都市では、下水道の他にも色々なライフラインが交錯していますから、開削して布設替えをするのは非常に難しく、管路更生工法の重要性はますます高まるだろうと考えています。



〈施工している様子〉



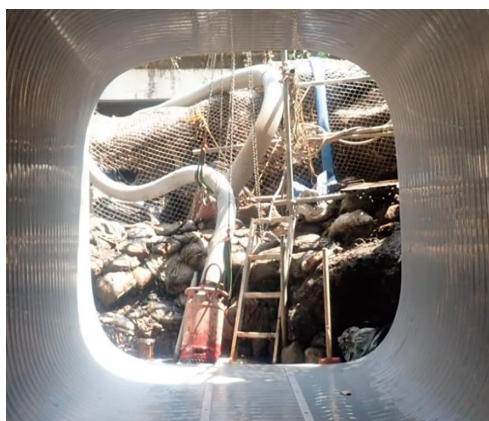
〈開削工事の交通規制〉



〈管路更生工事の交通規制〉

また、海に面した横浜ならではの悩みが塩害です。直接海とつながっている雨水や処理水放流管、下水管は、潮の干満による影響で海水が川を逆流して管内に入ってくることもあり、塩害が発生することがあります。そのような場合でも、管路更生で施工すると、樹脂材料で老朽管の内部に新たな管を構築す

るために腐食防止を兼ねた機能が付加され、塩害防止にも繋がります。実際の事例としては、鉄道軌道下にある管路更生工事です。海水が周囲に入り込んでいる所だったため、ポンプアップで排水しながらSPR工法で施工を行ったのですが、管路更生だけでなく、鉄道の陥没事故の防止にも繋がりました。



〈海近くの管路更生工事〉



〈軌道下の管路更生工事〉

——SDGsの取り組み全般について概説して下さい。

当社の本社ビルで使用する電気は、2021年より100%再生可能エネルギーです。また、照明をLEDに切り替えたことで、消費電力も20%ほど低減できました。

また、LED光源を利用した水耕栽培装置（植物工場）の販売事業では、地産地消と障害者雇用を創出す

る取り組みを進めています。プラントのモデルルームを本社ビル内に常設して実際に野菜を育てており、国内外を問わず見学会や職業体験の場となっています。

災害時のトイレ問題という視点からは、災害時に誰もが安心して使える環境を考えることを目的として簡易トイレの販売を手掛けるとともに、横浜市内の公立中学生に携帯トイレを寄付（27,000個）させて頂きました。



〈LED光源の植物プラント〉



〈災害トイレ〉



〈中学生に寄付した携帯トイレ〉

これ以外の学校向けの取り組みでは、いずれも横浜市から発行されている「小学生のためのお仕事ノート」および「中学生のためのお仕事ブック」に会社

の業務内容を掲載してもらい、将来を担う（SDGsに敏感な）世代に向けて、我々の仕事が⑪住み続けられる街づくりに貢献していることを説明しています。



〈小・中学生向け仕事紹介ノートブック〉

冒頭でお話した横浜市の認証制度“Y-SDGs”では、既述のような取り組みにより特に地域貢献分野が評価され、最上位の認証をいただいております。

それから、神奈川県呼び掛けに賛同した取り組みとして、森林保全に資する基金への寄付や、NPO法人と提携して社内で余剰になった食品を寄付するフードドライブ活動などにも参加しています。また、地域の国道をボランティアで清掃（1回/月）することを続けておりまして、これは地域の皆様との貴重な交流の場ともなっています。



〈フードドライブ活動〉

——貴社の目指すSDGs2030年はどんな姿ですか？

現在、各現場事務所で使用する電力も再生可能エネルギーへの切り替えを進めており、100%の使用率を目指しています。さらに、注目されているフィルム型のペロブスカイト太陽電池の採用を検討するなど、これまでの取り組みを深化させながら気候変動

に具体的な対策を積み重ねていきたいと思っています。

今後は、社員が中心となって積極的な提案活動を行ない、働きやすい職場づくりや、健康経営を達成し、かつ地域社会に多方面で貢献している会社として横浜市の「横浜グランドスラム企業表彰」*を今後も継続して選定され続けることができている姿が理想です。

❖*横浜グランドスラム企業表彰とは❖

横浜市が、働きやすい職場づくりや、健康経営、SDGsの達成など、社会のニーズに応え、地域に貢献しながら経営に取り組む企業を応援することを目的とし、同市が実施する4つの認定・認証制度（横浜型地域貢献企業、よこはまグッドバランス企業、横浜健康経営認証、横浜市SDGs認証“Y-SDGs”）を全て取得した企業を選定するもの。



〈横浜グランドスラム企業表彰（2023年6月受賞）〉

